

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：33917

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2020

課題番号：19K21619

研究課題名（和文）倫理を結節点とした都市の学際研究：持続可能性・安全・情報・ウェルビーイングの連環

研究課題名（英文）Transdisciplinary research for ethics of city and urban sustainability

研究代表者

神崎 宣次（Kanzaki, Nobutsugu）

南山大学・国際教養学部・教授

研究者番号：50422910

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,900,000円

研究成果の概要（和文）：都市という複合的な側面や層から構成されるフィールドを対象とした研究プロジェクトとして、本研究では都市と都市における人びとの生の問題に対して幸福、食農、工学、地理情報、移動、そして倫理といった多面的なアプローチから検討を行った。成果としては、第一に上記の各アプローチに関連する個別の研究がある。第二に、これらの多様なアプローチの研究者間での協働の体制を整え、今後の発展的な研究の基盤を整備したことが挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界人口の過半数が既に都市部に居住し、都市への人口集中が今後も続くと考えられる現状において、都市における持続可能性とウェルビーイング（幸福）をいかに向上させるかが重要な課題となっている。Society 5.0というキーワードのもとでICTなどの技術の利活用をはじめとする、さまざまな側面からこの課題へのアプローチによる知見が蓄積されてきているが、それらをいかに関連づけ、統合するかについては未だ議論が未整備な状況にある。本研究は萌芽的研究として、そのような体制を構築するための基礎となることを意図されたものである。

研究成果の概要（英文）：As a research project targeting a field composed of multiple aspects and layers, the city, this study examined the city and the problems of urban lives from multifaceted approaches such as happiness, food and agriculture, engineering, geographic information, mobility, and ethics. The main results of our research can be divided into two categories. First, there are individual studies related to each of the above approaches. Secondly, we have established a system of collaboration among researchers of these various approaches, and have prepared a foundation for future developmental research.

研究分野：倫理学

キーワード：都市 食農倫理学 地理情報 幸福 持続可能性 工学倫理

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

世界人口の過半数が既に都市部に居住しており、今後も都市部への人口集中が続くと想定されている。このような状況においては都市生活の持続可能性とウェルビーイングを向上させることが、SDGsなどの観点から優先度の高い課題となっている。実際、さまざまな学術分野やアプローチに基づく研究の成果が蓄積されてきているが、個々の領域でなされている研究をいかに関連づけ、統合的な知見を得ることができるかについてはこれからの課題という状況であった。

これとは別に、技術倫理分野での研究動向があった。地理情報技術や監視技術などを含む情報技術やIoT、自動運転を始めとする交通、食料生産や流通、都市におけるウェルビーイングなど、従来個別のものとして扱われていた話題を統合するフィールドとしての都市への注目が集りつつあった。

また国内的な状況としては、工学的な開発を目的とした領域横断的な研究プロジェクトに倫理学・哲学分野の研究者が参加する機会が増加しているということもあった。領域横断的な研究プロジェクトにおける倫理学や哲学の役割とは何か、そうしたプロジェクトの遂行上要求される倫理とは何か、といった問題関心もあった。

本研究の着想および申請時点での背景は上記の三点であった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の背景をふまえて、都市に関連する諸研究の例として経済学、食農分野、地理学、工学倫理を選んだ上で、それらを接合する観点としての倫理学を中心に分野間での知見の共有と協働のための研究体制を構築することであった。

### 3. 研究の方法

研究方法としては、個別領域での各自の研究をベースにして、それらの間での協働の可能性を学会や研究会の場を活用して探るという、それ自体としては特徴のないものであった。

ただし、新型コロナウイルスの流行により、当初の協働の予定がかなり制限されることになり、現実にはメーリングリストやオンラインでの研究会などのかたちで行わざるを得なかった。学際的な研究にはどうしても研究者同士の関係という属人的な側面が存在するため、直接対面する機会が完全に失われたことにより方法論上、本研究は制限を受けることになった。

### 4. 研究成果

上で述べたように、二年間の研究期間の半分以上に渡って大きく研究活動を制限されることになったが、それでも次に述べるような一定の成果があった。

まず、各分担者による個別の研究成果は、論文や学会発表等のかたちで公開されてきている。主だった成果の内容の概略を説明すると以下ようになる。Suzuki (2019)は、フランスでの暴動の分析を通して、近年のオンライン・マッピング・サービスやソーシャル・ネットワーキング・サービスの普及により、人びとが暴動を含む集合的行動に参加する敷居が下がっていると指摘している。その上で、地理情報技術に関する何らかの倫理的な基準が必要だと結論している。また鈴木は2020年度には感染症と一般市民による地理情報の可視化の問題、感染症と観光の問題について成果を公表している。笹橋が2020年度に共著で公表した三つの論文は、いずれもウェルビーイングと消費の関係を分析したものであり、そのうち一本はCOVID-19流行下での両者の関係を扱っている。斉藤(2020)は人工物に媒介された世界という観点から工学倫理の特性を分析している。都市は人工物に媒介された世界の代表例であり、斉藤は工学がサービス化した現在においては製造よりも、設計やメンテナンスが重要になると指摘している。太田・立川(2019)はフードシステムと市民性の関係を検討した論文である。また太田が共著者となっているKondoほか(2019)は、オープンサイエンスおよびコミュニティによる参加という超学際研究のあり方に関して論じており、本研究にとっても研究手法という面で重要性の高い研究成果である。同様に、神崎による学会報告(Kanzaki 2020)は、超学際的な研究における研究倫理という問題を論じている。また、レポジトリへの登録の関係で本報告執筆時点では未公開であるが、太田・神崎ほか(forthcoming)は、超学際研究に取り組もうとしている倫理学・哲学系研究者向けの研究ガイドブックとして、今後の研究の発展に貢献するものである。

次に、研究代表者である神崎と分担者の一人である太田がオーガナイザーとして開催したアジア太平洋食農倫理国際会議(APSAFE2020 <https://www.apsafe2020.online>)を通じて、食と農業、都市、そして倫理などの分野間、および地域間での研究者の協働のための基盤が構築された。

こと。特に、今後の継続した開催やウェビナーなどの関連する企画の実施を議論するためのプラットフォームを太田が Slack 上に整備したことは、研究のための国際・地域間協働の基盤構築という点で意義の大きいことだと言える。

最後に、本研究によって都市に関連する分野横断的な研究体制の基礎が形成されたことを成果として挙げることができる。これによって、本研究の研究期間を延長せずに、より広い分野の分担者を追加した後継の研究プロジェクトの申請を行うことが可能になっただけでなく、より広い観点から都市の問題に取り組むことが可能になったといえる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yasuhisa Kondo, Akihiro Miyata, Ui Ikeuchi, Satoe Nakahara, Ken'ichiro Nakashima, Hideyuki Onishi, Takeshi Osawa, Kazuhiko Ota, Kenichi Sato, Ken Ushijima, Bianca Vienni Baptista, Terukazu Kumazawa, Kazuhiro Hayashi, Yasuhiro Murayama, Noboru Okuda, Hisae Nakanishi	4. 巻 39
2. 論文標題 Interlinking open science and community-based participatory research for socio-environmental issues	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Current Opinion in Environmental Sustainability	6. 最初と最後の頁 157-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田和彦, 立川雅司	4. 巻 13
2. 論文標題 持続可能なフードシステムの構築に向けた多様な当事者の関与の促進 「食に関わることの市民性」の概念分析と使用傾向について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 共生社会システム研究	6. 最初と最後の頁 141-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki, K	4. 巻 2
2. 論文標題 Caveat emptor: A new form of participatory mapping and its ethical implication on PGIS	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings in Cartography and GIScience of the International Cartographic Association	6. 最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10708-019-10081-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki, K	4. 巻 85
2. 論文標題 #Purge: Geovigilantism and geographic information ethics for connective action	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 GeoJournal	6. 最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10708-019-10081-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木晃志郎・于 燕楠	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 怪異の種類と分布の時代変化に関する定量的分析の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 E-Journal GEO	6. 最初と最後の頁 55-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 目代邦康・小野有五・鈴木晃志郎・竹本弘幸・吉永明弘・有馬貴之	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 ジオエシックスとジオパーク	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 E-Journal GEO	6. 最初と最後の頁 304-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤了文	4. 巻 51(2)
2. 論文標題 図解・工学倫理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西大学『社会学部紀要』	6. 最初と最後の頁 109-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurumi Tetsuya, Yamaguchi Rintaro, Kagohashi Kazuki, Managi Shunsuke	4. 巻 online
2. 論文標題 Are Cognitive, Affective, and Eudaimonic Dimensions of Subjective Well-Being Differently Related to Consumption? Evidence from Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Happiness Studies	6. 最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10902-020-00327-4	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴見哲也・山口臨太郎・籠橋一輝・馬奈木俊介	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 コロナウイルス感染症流行下での消費と主観的福祉	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 環境経済・政策研究	6. 最初と最後の頁 66-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 太田和彦
2. 発表標題 フードスケープを活用した食に関する情報と知見の学際的統合の実践：「私たちが養っているもの」の可視化を通じた理解の変化
3. 学会等名 共生社会システム学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田和彦
2. 発表標題 超学際的実践のなかの省察：サマースクール「フードスケープをつなぐ」を事例として。
3. 学会等名 応用哲学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田和彦
2. 発表標題 フードシステムの持続可能性の向上を目指す取り組みへの食農倫理学の寄与の方向性
3. 学会等名 応用哲学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田和彦
2. 発表標題 土壌をめぐる対話の場をデザインする方法論：Field to Paletteを参考として
3. 学会等名 日本土壌肥料学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斉藤了文
2. 発表標題 テクノロジーにおける個別化の論点
3. 学会等名 応用哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斉藤了文
2. 発表標題 サービス化時代の工学倫理
3. 学会等名 設計工学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斉藤了文
2. 発表標題 技術についての問いの転換
3. 学会等名 STS学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤了文
2. 発表標題 事故の哲学
3. 学会等名 日本工学会 技術倫理協議会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Suzuki, K
2. 発表標題 Caveat emptor: A new form of participatory mapping and its ethical implication on PGIS
3. 学会等名 29th International Cartographic Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木晃志郎・伊藤修一・于 燕楠
2. 発表標題 心霊スポットは何と空間的に随伴するのか
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田和彦、藤原なつみ、岩島史、神崎宣次
2. 発表標題 持続可能なフードシステムへの移行/転換 食農倫理学は「厄介な問題」にどのように対処するか
3. 学会等名 応用哲学会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 神崎宣次、吉添衛、服部宏充、市瀬龍太郎、大澤博隆、久木田水生、西條玲奈、本田康二郎、江間有沙
2. 発表標題 対話の可視化技術と可視化された「対話」の哲学
3. 学会等名 応用哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木晃志郎
2. 発表標題 (コロナ禍が顕在化させた)『移動しない観光』の可能性
3. 学会等名 第4回北陸観光研究ネットワーク談話会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木晃志郎
2. 発表標題 COVID-19をめぐるボランティアな地理情報(VGI)の最前線
3. 学会等名 「人文知」コレギウム コロナ特別企画
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 斉藤了文
2. 発表標題 環境騒音に関する規格と認証:コメント
3. 学会等名 機械学会No21-19【分野連携企画】法工学・環境工学連携セミナー「環境技術における法工学-SDGsに向けて~」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田和彦
2. 発表標題 フードシステムの持続可能性の向上を目指す取り組みへの 食農倫理学の寄与の方向性
3. 学会等名 応用哲学会第 12 回年次研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 神崎宣次、斎藤了文、太田和彦、鈴木晃志郎、籠橋一輝
2. 発表標題 ワークショップ「都市における持続可能性、技術、ウェルビーイング」
3. 学会等名 応用哲学会第 12 回年次研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田和彦、神崎宣次、谷口彩
2. 発表標題 ワークショップ「超学際的実践のなかの省察:サマースクール『フードスケープをつなぐ』を事例として」
3. 学会等名 応用哲学会第 12 回年次研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nobusugu KANZAKI
2. 発表標題 Research ethics for food ethics
3. 学会等名 Asia Pacific Society for Agricultural and Food Ethics (APSAFE2020)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田和彦
2. 発表標題 「食べる のどこに倫理はあるのか? : 食農倫理学の長い旅」
3. 学会等名 神戸大学 メタ科学技術研究プロジェクト:方法・倫理・政策の総合的研究(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 富山大学人文学部 『人文学部叢書IV』出版委員会編 鈴木晃志郎ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 桂書房	5. 総ページ数 95
3. 書名 人文知のカレイドスコープ IV(鈴木晃志郎「ボランティアな地理情報(VGI)の可能性と課題 COVID-19 をめぐって」)	

1. 著者名 菊地俊夫編著 鈴木晃志郎ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 二宮書店	5. 総ページ数 156
3. 書名 地の理の学び方(鈴木晃志郎「さまざまな地図を用いた地域の見方・考え方」)	

1. 著者名 大西宏治・藤本武編 鈴木晃志郎ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 200
3. 書名 大学的富山ガイド((鈴木晃志郎「立山黒部アルペンルートの過去、現在と未来」)	

1. 著者名 Maddison, D., Rehdanz, K. and Welsch eds. Kagohashi, Kazukiほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Edward Elgar	5. 総ページ数 448
3. 書名 Handbook on Wellbeing, Happiness and the Environment (Tsurumi, T., Kagohashi, K. and Managi, S. 'How environmental ethics affect the consumption-wellbeing relationship: evidence from Japan.')	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	太田 和彦 (Ota Kazuhiko) (50782299)	総合地球環境学研究所・研究部・助教  (64303)	
研究分担者	斉藤 了文 (Saito Norifumi) (60195998)	関西大学・社会学部・教授  (34416)	
研究分担者	籠橋 一輝 (Kagohashi Kazuki) (60645927)	南山大学・国際教養学部・准教授  (33917)	
研究分担者	鈴木 晃志郎 (Suzuki Koshiro) (90448655)	富山大学・学術研究部人文科学系・准教授  (13201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Asia Pacific Society for Agricultural and Food Ethics (APSAFE2020)	開催年 2020年～2020年
--	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------